主催団体挨拶

古賀　誠　全国道路利用者会議 会長

主催であります道路関係4団体を代表して一言ご挨拶申し上げたいと思います。

最初に、全国各地からご参集頂きました各団体の会員ならびに関係者の皆さんに、平素より我が国の道路整備の促進にあたりまして、積極的なご支援・ご協力を賜っておりまして、心からお礼申し上げたいと思います。今日、また、ご繁忙の中にこうしてご参集頂いて、本当に心から感謝申し上げます。

今日お集まりの皆さんの思いを、是非、衆・参の国会の先生、ご来賓の皆さん方にしっかりとお聞き入れ頂きまして、本日の大会が、より有意義な実りある道路整備促進の大会になりますことを、心からお祈りする次第であります。

最近、異常気象が全国各地に予想を超える大きな被害をもたらしております。7月は、福岡県、大分県に甚大な被害をもたらした九州北部豪雨、9月には台風18号。10月にも、超大型台風21号、間を置かずして台風22号が、沖縄から北海道まで列島各地に記録的な集中豪雨と強風による被害の爪痕を残しております。

被害に遭われた方々には、改めて心よりお見舞いを申し上げますと同時に、被災地の早急な復旧と生活の再建を心から願っております。地震や津波、そして、水害やがけ崩れなどの自然災害の被害を最小限にとどめるためには、事前防災・減災対策を行うとともに、避難路や物資輸送などの道路交通網を確保する事が不可欠であります。かつて、「コンクリートから人へ」と空虚な言葉に惑わされ、その対策が滞ってしまった現実を見ますと、返す返すも残念なことであります。

今、我が国の道路整備に課せられた課題は、申すまでもなく「東日本大震災・熊本震災被害等の復旧・復興の加速」「自然災害に対処する事前防災・事前減災対策」「道路インフラの老朽化に対応する対策」「幹線道路ネットワークの未整備区間の整備」「渋滞対策、交通安全対策」など、日々の生活に密接に関わるものが山積致しております。

私は、高規格幹線道路から生活道路に至るすべての道路が生産性の向上に寄与し、日本の経済を支え、さらに、災害時の緊急輸送路としての効力を発揮するものであると確信を致しております。

また、我が国を支えているのは、地方であり、それぞれの地域であります。平成29年度で期限切れとなる「道路財特法による補助率等の嵩上げ措置」につきましても、平成30年度以降も引き続き継続することにより、地方の負担を増やすことのない道路予算を、ぜひ確保する必要があります。

ご承知の通り、我が国の道路整備は、長い間道路整備5箇年計画や道路特定財源制度によって支えられてきました。残念ながら、平成21年、暫定税率が継続されたまま、道路特定財源制度が廃止され、今日に至っている訳であります。本当に残念なことだと思います。

道路整備事業には、長期的な計画と安定的な財源が必要であります。今後、道路予算の在り方につきましても、お互いに知恵を出し、新たな方策を思案しなければならないと思っております。

本日、ここにご参集の皆さん方とともに、全ての道路利用者のための「安全で安心な道路」の整備促進を目指し、汗をかく所存でありますので、ご支援とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、本大会の開会の挨拶とさせて頂きます。

来賓挨拶

石井啓一　国土交通大臣

本日の全国大会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと存じます。

本年も、九州北部をはじめ、全国各地で記録的な豪雨により甚大な被害が発生致しました。国土交通省と致しましては、東日本大震災や熊本地震の被災地を含めまして、これまで各地を襲った自然災害からの復旧・復興に全力で取り組んで参る所存であります。

さらに、大災害は必ず発生するとの意識のもと、防災・減災対策、代替性確保のための道路ネットワーク整備や、無電柱化、急速に進む道路施設の老朽化についても、計画的な管理更新、生活道路や自転車、高速道路の安全対策などに取り組むとともに、道の駅やスマートインターチェンジなどの活用による小さな拠点づくりや、道路ネットワークで地域や拠点をつなぎ、広域的な経済生活圏の形成を推進して参りたいと存じます。

さて、我が国は、深刻な少子化や急速な高齢化が進んでおりますけれども、それを上回る生産性の向上があれば、経済成長を続けていくことは十分可能であります。国土交通省では、生産性革命への取り組みにつきまして、小さなインプットでできるだけ大きなアウトプットを生み出すという考えのもと、ピンポイントの渋滞対策や、ダブル連結トラックの導入など、20の生産性革命プロジェクトの具体化をスピーディーに進めて参りたいと考えております。

また、今年度はいわゆる財特法に規定される道路整備の特別措置が期限切れとなりますが、地域の道路整備を着実に推進するためにも、道路を取り巻く政策課題や地域の財政状況なども考慮しつつ、継続できるよう取り組んで参りたいと存じます。

これらの施策を来年度以降も着実に進めていくためには、必要な公共事業予算を安定的、持続的に確保しなければなりません。国土交通省と致しましても、本日お集りの皆様の幅広いご意見を頂きながら、必要な道路整備を着実に推進して参りますので、なお一層のご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

来賓挨拶

野田国義　参議院国土交通委員長

本日は、「安全・安心の道づくりを求める全国大会」が多くの関係者のご参集を得て、かくも盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げたいと思います。

さて、我が国は、気候変動による集中豪雨、大型台風、竜巻、豪雪などの気象災害が季節ごとに形を変えて頻発することに加え、世界有数の地震、火山大国であります。例えば、九州地方を見てみますと、本年は九州北部豪雨を初めとする風水害に見舞われ、昨年も熊本地震により多くの被害を受けました。また、昨年から今年にかけて、阿蘇山、桜島、霧島山の噴火なども発生し、依然として地震、火山活動が活発であります。

災害時には、緊急輸送道路や避難道などがまさに命綱であり、極めて重要であります。東日本大震災、熊本地震等の被災地の復旧等も加速しなければなりません。寸断された道路の復旧や復興に不可欠な、新たな道路の整備について、1日も早く開通させてほしいという、被災地の方々の切実な願いに応えていかなくてはいけません。

ところで、人口減少社会を迎える我が国にとって、次世代を担い、国と地域を支えていく子供達は、まさに国の宝であります。子供たちが通う通学道の安全対策を初めとする、地域の交通安全を確保していく必要がございます。

また、高齢者や障害者など、交通弱者に配慮した道路のバリアフリー化の推進、自転車等が安全に通行できる空間の確保のため、無電柱化の推進、狭い道路の拡幅なども求められております。

さらに、物流、人の流れを支える道路は、国民生活を支える上で必要不可欠なインフラであります。特に近年、運輸業界では人手不足等が深刻化し、効率化が喫緊の課題となっております。物流業界の効率化を援護していくためにも、物流を支える道路ネットワークの機能強化や、渋滞対策を進めていくとともに、大型トレーラーなど特車基準の緩和や、高速道路の大口・多頻度割引のような事業者向け割引の拡充を継続していく必要がございます。

加えて、国内外からの観光客の増加への対応も、喫緊の課題となっております。道の駅やサービスエリアなど、地域振興の拠点として、整備を促進するとともに、より多くの人々の移動を円滑化するため、バスターミナルやバス停などのバス利用の拠点の整備や、その改善を図っていくことも求められております。

私もこのように、様々に山積する課題に対応し、皆様のご要望にお応えするため、消費的かつ安定的に道路整備が推進できるよう、道路予算、関係予算の確保に向けて全力を尽くして参る所存であります。

最後に、安全・安心の道づくりに対する皆様方のご熱意とご尽力に心から敬意を表しますと共に、皆様のご健勝と一層のご発展を祈念致しまして、挨拶と致します。

来賓挨拶

西村明宏　衆議院国土交通委員長

本日は、「安全・安心の道づくりを求める全国大会」が開催されるにあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

まずは、日頃より安全・安心の道づくりの実現に格別のご尽力を頂いておりまします皆様方に対しまして、心より深く感謝を申し上げるところでございます。

申し上げるまでもなく、道路というものは、住民の日常生活や国民の経済活動に欠かすことのできない、最も基礎的で身近な社会資本であり、災害時には避難路や緊急輸送路としても重要な役割を果たしているところでございます。私の地元である宮城県におきましても、東日本大震災の発災直後から、すでに開通していた三陸沿岸道路が、まさしく命の道として機能して、救援・救助に極めて大きな役割を果たしておりました。

現在、復興道路・復興支援道路として整備が進められております三陸沿岸道路のうち、山田宮古道路が、今月19日、震災後事業化された区間では初めて開通いたします。復興支援道路の開通見通しは、約9割が確定しているところでございます。

しかしながら、まだまだ全国的には多くのミッシングリンクが残されており、防災・減災とともに地域の雇用創出や経済の活性化、住民サービスの向上など、地域活性化の観点からも、ミッシングリンクの早期解消が強く求められており、広域的な交流・連携を確保し促進する道路ネットワークの整備は喫緊の課題となっているところでございます。

このような中で、高度経済成長以降、集中的に整備されて参りました道路、こういった社会資本は、今後の急速な老朽化の進行により、その対策が急務となっているところでございます。また、通学路など、生活道路における安全対策を初めとした、国道空間のバリアフリー化、暫定車線の4車線化、渋滞対策、無電柱化の促進など、安全で快適な通行空間の確保に向けて、早急に取り組むべき課題が山積しているところでございます。衆議院国土交通委員会と致しましても、皆さんのご意見や、採択される決議をしっかりと受け止めまして、今後ともご期待に沿えるように最大限の努力を堅持して参る所存でございます。

最後になりますけれども、本日ご参集の皆様方のますますのご健勝とご活躍を、また、古賀会長を初めとした皆様のお力添えを心からお願い申し上げて、ご挨拶とさせて頂きます。本日は皆さん、心を1つにしてこれからも頑張って参りましょう。

司会

福島県相馬市長

立谷秀清

道路整備促進期成同盟会全国協議会副会長

意見交換

山田裕一

宮城県白石市長

決議文朗読

広島県東広島市長

藏田義雄

全国街路事業促進協議会代表

閉会の辞

茨城県常陸太田市長

大久保太一

道路整備促進期成同盟会全国協議会会長